

事務事業名	児童生徒各種大会出場助成事業				☐ マニフェスト関連		☒ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会	所属課	学校教育課	
施策名	22	義務教育の充実			所属係	学務指導班	課長名	合志良一	
基本事業名	83	体育の推進			担当者名	古莊一也	電話番号 (内線)		
予算科目	会計 01	款 10	項 01	目 03	事業	法令根拠 合志市各種大会等出場補助金交付要綱			
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 H13 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 児童生徒がスポーツ大会や文化活動を通して、心身ともに健やかな成長が図られるよう、小中学校の児童生徒で組織する団体又は個人が、県大会以上の大会等へ出場する場合に、大会等への出場に要する経費を助成する。 九州 5000円 沖縄 10000円 九州・沖縄を除く国内 20000円 小中学校の部活として出場する場合 参加経費全額 (業務の内容) 申請受付、補助金交付決定、請求支払い事務、大会参加確認(実績報告)、補助金精算事務 (予算の内訳) 補助金						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)	0	
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B)	0
							トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

小中学校の児童生徒で組織する団体又は個人が、県大会以上の大会等へ出場する場合に、大会等への出場に要する経費を助成した。
 申請件数 67件 補助金総額 3938千円

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

○H18年度に同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

県大会以上の各種大会等に出場する児童生徒の保護者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

県大会以上の大会に参加する経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減する。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

健康な身体になる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 県大会以上の大会に参加する児童生徒数	人
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 小中学校の児童生徒	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 大会に参加できて有意義だったと思う児童生徒の割合	%
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 体力テスト結果で、A〜Cと判定される児童生徒の割合	点
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	国庫支出金	千円			0	0	0	0
	都道府県支出金	千円			0	0	0	0
	地方債	千円			0	0	0	0
	その他	千円			0	0	0	0
	一般財源	千円			3,938	2,700	2,700	2,700
	事業費計 (A)	千円	0	0	3,938	2,700	2,700	2,700
	正規職員従事人数	人	0	0	2	2	2	2
	延べ業務時間	時間	0	0	310	310	310	310
	人件費計 (B)	千円	0	0	1,231	1,231	1,231	1,231
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	5,169	3,931	3,931	3,931
活動指標	人			290	290	290	290	290
対象指標	人			5,075	5,101	5,180	5,210	5,270
成果指標	%			(未把握)				
上位成果指標	点							

合志市

事務事業名	児童生徒各種大会出場助成事業	所属部	教育委員会	所属課	学校教育課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
小中学生の全国大会等への参加者より、参加経費の一部補助の要望が高まり、小中学生のスポーツ活動、文化活動奨励の意味からも補助金を出すようになった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
以前と比べて種々の大会が開催されており、本市からも県予選を通過しての参加者も増加している。特に、サッカー、陸上、水泳、ミニバスケット、野球、剣道他の九州大会や全国大会に出場している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
保護者からはお礼の言葉が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 大会参加において、参加経費の一部を補助するkにより保護者の経済的負担の軽減になり、出場する児童生徒も安心して出場できるようになり、教育現場におけるスポーツや文化活動の奨励につながるので整合性はある。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 義務教育の一環として、児童生徒のスポーツ活動、文化活動を奨励することにつながるので市がこの事業を実施するのは妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を小中学生としており、義務教育の一環であるので対象、意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現在、部活動で出場する場合定額であるが、全国大会での遠方への参加は多額の出費であり、成果を向上させるには、補助金額の引き上げることだか、市の財政状況を考慮すると現状維持又は補助金の縮小の方向にならざるを得ないので成果向上余地はない。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 毎年、かなりの人数が九州大会や全国大会に出場しており、小中学生のスポーツ、文化活動の奨励の意味からもその影響は大である。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) 合志市ふるさと創生基金条例施行規則による大会出場補助 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 上記の施行規則の中に、合志市各種大会等出場補助金交付要綱の対象になるものは除くとあり、規則の変更がない限り統廃合・連携はできない。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 予算額が限られており、出場者の増加により、定額の補助金額の引き下げは検討する必要がある。また、各大会における補助する回数も規定する必要がある。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 業務時間は必要最低限である。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 義務教育の一環として対象者は小中学生であり、保護者の経済的負担の解消及び出場奨励の意味合いもあり受益者負担は適当でない。

合志市

事務事業名	児童生徒各種大会出場助成事業	所属部	教育委員会	所属課	学校教育課
-------	----------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

現在多くの小中学生が九州大会や全国大会に出場しており、その種目も多岐にわたっている。小中学生のスポーツ、文化活動の奨励の意味からも今後も継続していきたい。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

予算的に限られており、大会出場者が増加すればある程度の補助金額の引き下げもやむ終えないし、補助回数の制限も必要と考えられる。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持	○		×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

補助金引き下げ及び補助回数制限についての、保護者が納得するように説明すること。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項